



LIMA COP20|CMP10
UN CLIMATE CHANGE CONFERENCE 2014

リマ通信 5 (2014年12月12日 ペルー・リマ)



ADP共同議長、キサン・クマルシン氏（左）とアルトゥール・メッツガー氏（右）。
ADPコンタクト・グループで(写真：CASA)

延々と続く交渉

12月11日午後7時からストックテイキング会合（中間報告総会）が開かれました。

ブルガル・ビダル COP/CMP 議長は、「我々は決定が必要だ。何も持たずにリマを去ることは受け入れられない。もし合意に失敗すれば、パリでの合意がさらに困難になる。世界に希望を与えるためにも、目的を達しなければならない。すべての締約国の政治的意志とサポートが必要だ。」と会場を埋めた締約国の代表団に呼びかけ、ADP 共同議長に新たな決定案を、午後9時までに作成するよう要請しました。

12月12日午前中に再開したADPでは、11日午後10時30分に出されたCOP決定案¹ (draft decision) について各国・グループの意見が表明されました。ADPは午前中から午後2時頃まで行われ、共同議長としてはオプションのついた部分（パラグラフ7、9、11、13）の

¹ Draft text on item 3 (Version 2 of 11 December 2014 at 22:30) 、
http://unfccc.int/files/meetings/lima_dec_2014/in-session/application/pdf/adp2-7_i3_11dec14t2230_dt.pdf

みを交渉するつもりだったようですが、オプションのついていないパラグラフについての意見や項目の追加などの提案がなされ、午後2時の段階でもまだ20カ国以上の発言が残っていました。オプションが用意されているパラグラフは、

- ① INDC に何を含めるか (パラグラフ7)
- ② INDC と一緒に提出するとされる情報にはどのような情報を含めるか(パラグラフ9)
- ③ INDC の事前協議プロセス (パラグラフ11)
- ④ 2020年までの排出削減レベルの引き上げ (パラグラフ13)

で、それぞれオプションが3つずつ用意されています。このADPの決定案については、ノルウェーとシンガポールの大臣が各国、各交渉グループから意見を聴取し、決定案のドラフトをまとめることになってはいますが、いつ決定案のドラフトが出てくるかはまったく分かりません。午後3時半頃から開催されたストックテイキング会合では、プルガル・ビダル議長は、「今日中に再度、ストックテイキング会合を開催する」と発言しましたが、時間については「未定 (some time)」としており、日付が変わる前に決着がつくことは考えにくい状況になっています。

日本が初めての宝石賞を受賞

宝石賞というのは、化石賞の反対で、その日の会議でもっとも交渉を前に進める発言や行動をした国・グループに贈られる賞です。



宝石賞にはその名にちなみ、キラキラ輝くアクセサリが授与される(右側写真中、丸で囲ったもの)のですが、日本は「もう一歩で宝石賞」なので、手渡されることはなく、「日本が宝石を受け取ろうと手を伸ばすもプレゼンターがヒョイと引いてしまって受け取れない」というパフォーマンスが行われました(写真: CASA)。



12月11日、日本が初めてこの宝石賞を受賞しました。受賞の理由は、日本も提案しているINDCsの事前協議について政府だけでなくNGOなどを含めたQ&Aのプロセスの復活を、12月10日のADPで発言したことです(通信3の「望月環境大臣と懇談」の記事を参照してください)。

しかし、残念ながらこの宝石賞は、「もう一步で宝石賞」という、限定的な宝石賞です。その理由は、日本が緑の気候基金（GCF）の理事会を、インターネットで公開することにアメリカと一緒に反対しているためです。これに反対しているのは、アメリカと日本だけであり、「もう一步」というのは、緑の気候基金（GCF）の理事会の公開に反対することを止めれば、晴れて「宝石賞」を授与するとの趣旨です。

会議場から

12月11日午後7時から開かれたストックテイキング会合では、プルガル・ビダル議長が大演説。「我々は何も持たずにリマを離れるわけにはいかない（We will not accept leaving Lima with empty hands.）」と何度も会場に呼びかけ、「私は法律家だ。1992年のリオ・デ・ジャネイロの地球サミットにも参加した。」と自分の思い出を語る場面も。演説が終わった時には、会場からは拍手、拍手。その後、ADP共同議長に午後9時までにCOP決定案のドラフトを作成するよう指示しましたが、COP決定案のドラフトが出てきたのは午後10時半でした。

今日は午前から午後2時頃までADPが続き、各国・各グループのドラフトについての意見表明が続きました。最終日で時間が無い中、マレーシアの代表が延々と15分くらい発言し、聞いているほうはいささかうんざり。NGOの中には、「マレーシアのこの交渉態度は化石賞もの」との意見も。午後2時の段階で、まだ20カ国以上の発言が残っており、ADP共同議長からは発言希望をとり下げる締約国はないかと確認する場面も。いまリマ時間午後9時ですが、何時に終わるのか、まったく目処がたっていません。

発行：地球環境市民会議(CASA)

〒540-0026 大阪市中央区内本町 2-1-19 内本町松屋ビル 10-470 号室

TEL: +81-6-6910-6301 FAX: +81-6-6910-6302

早川光俊、土田道代

現地連絡先:

早川光俊 +81-90-7096-1688、QYJ06471@nifty.ne.jp

土田道代 +81-90-4299-8646、tsuchida@casa.bnet.jp

#これまでの通信は、以下のサイトをご覧ください

<http://www.bnet.jp/casa/cop/cop.htm>

#CASAのfacebookページ

<https://www.facebook.com/ngocasa1988>